



不登校の児童生徒の保護者のみなさんにお便りします

# やまびこ



兵庫県立但馬やまびこの郷

<http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>  
E-Mail : Tajimayamabiko@pref.hyogo.lg.jp

## やまびこ親の会

8月26日と27日の2日間にわたり「やまびこ親の会」を開催しました。今年度も、不登校及び不登校傾向の子どもを持つ保護者が集い、情報交換などをして交流を深めました。

### 所長講話「親は子どもを守れるか？－健康・愛情・『いい加減』－」

思春期は自分でもどうしてよいのか分からない混乱する時期です。親としてどのように子どもとかわればよいのでしょうか。

**健康**「健康になるためには、まず幸せになること」と言われています。そのためにはポジティブな人間関係を築くことが大切です。**愛情**「乳幼児期はベタベタする」「学童期は一緒に遊ぶ」「思春期はちょっと距離をとる」など、子どもへの愛情の示し方はライフステージに応じて変化します。しかし、「くどくど説教しない」「命令は危険が迫ったときにだけ」「イヤ味や愚痴を言わない」など、どのステージでも共通するルールがあります。**いい加減**いい加減とは、「良い加減」つまり「ほどほどである」ということです。「確固たる自己」は、大人になる過程でゆっくりと形成されます。自己が形成されると、情緒的に巻き込まれることなく、他者との関係を楽しむことができるようになります。親も自分をしっかりと持ち、子どもとの関係を「いい加減」に楽しんでください。



### 体験・創作活動「仲良くなって、みんなで楽しもう」



子どもたちが普段行っている活動を、保護者の皆さんにも体験してもらいました。初めのうちは皆さん緊張した面持ちでしたが、活動が進むにつれて笑い声が絶えませんでした。活動後、「あっと言う間に時間が過ぎました。久しぶりに夢中になることができ楽しかったです」などの感想が聞かれました。



### 保護者交流会

日頃の思いや悩みについて話し合いました。OBの方からの経験談やアドバイスをいただくこともできました。参加者の方からは「保護者交流会では違った視点からの意見が聞け、自分の考えを客観的に見つめ直すことができました」「OBの方の話は参考になり心強く感じました」などの感想が聞かれました。



## まこさんからのメッセージ

# 「待つ」ことと 「待たせる」こと



兵庫県立但馬やまびこの郷所長 佐藤 眞子

むかしむかし、ケータイなどがまだなかった頃、恋人たちは夕暮れの街中にたたずんで、「愛しい人が来るのを待ち続ける」ということがありました。ずっと待って、ひたすら待ち続けて、「2時間待ちました」という文字が、駅の伝言板に書かれているのを読んだこともあります。今はそんなに待ってくれる恋人はいないでしょう。みんなせっかちになって、「待つ」ことに耐えられなくなっています。待ち合わせの時間に5分でも遅れると、「今どこ？」というメールが届きます。「もうこれ以上、待てません」待てない社会。待てない私たち。

### 期待しないで待つこと

春が近づいてくると、不登校を続けていた子どもたちが少しずつ元気になってくるように思います。母親と買い物に行ったり、友だちと遊びに行ったりすることが増えて、3月の終わり頃には「新学期から学校行くから・・・」と言い始めたりもします。親としては、「ずいぶん欠席したけど、もう大丈夫でしょう」と登校を期待してしまいます。

「何度もそういうことがありました。でも、大きく期待すると、それがかなわなかったとき、大きく失望します。そういう私を見て、子どもはあっさり落ち込みます。その繰り返しに疲れました」と話す不登校の子どもを持つ母親がおられました。

「繰り返しされた後ですから、とりあえず、今はジタバタしないで待つことにしました。期待する自分を強く意識すると、その期待に自分がかんじがらめになってしまいます。そうすると、家の中の空気がピリピリして、家族が些細な事に敏感になってしまいます。まあ、期待しないで、待ってみようと思います」と言って、向けられた顔は少しだけ笑顔でした。

無限に続きそうに思える時間を、私たちはどうやって待てばいいのでしょうか。待ちあぐねて、待ちくたびれて、一体何を待っているのかわからなくなるくらい待って、それでも何かがふと訪れるということがあるので（絶対あります）、何気ない日常を共にしながら、あとは待つだけ、待ってみるしかないのでしょうか。



### 待たせることの辛さ

「待つしかない」という思いに至るまでには、長い長い抗いの時間が流れたのかもしれませんが。母親の話は続きます。「子どもが不登校になったはじめの頃は、学校に行くのが当たり前なのに、

それができないのはなぜなのか、『なぜ、なぜ・・・』という疑問が次から次へと湧いてきました。父親は『子どもに取り扱い説明書がついていたらよかったのに』なんて言っていました」突然動かなくなった子どもへの戸惑い、不安、苛立ち。でも母親は気づいたのでしょう。「待たせている子どもも辛いかもしれない」と。

待っているヒトがいるということは、待たせているヒト（モノ）がいるということでもあります。子どもは、親が期待しながら待っているということに敏感です。できれば親の期待に応じてあげたい。しかし、気持ち、身体が、動かないのです。

待つということは、能動的に行動するよりはずっとエネルギーが要ります。でももっとエネルギーを必要とするのは、大切な人を待たせることかもしれません。待つ人を苛立たせたり、不安定にしようとして、待たせているわけではなく、待たせたくもないのに待たせてしまう。待たせることの辛さ。「待つことも辛いが、待たせることも辛いものではないか」という認識は、親子関係の相互性を深めます。

## 「待ったり、待たせたり」



相互性と言いましたが、待たせる人は待つ人でもあります。太宰治に「待つ」と題した掌編があります。省線（鉄道省の経営した省線電車の略）の駅に立ち寄って、ベンチに座り、ぼんやり誰かを待っている女性。誰かを待っているのに、誰かに声をかけられたら、おおこわい。ああ困る。身体が強張る。ぞっとして息がつかまる。〈けれども私は、やっぱり誰かを待っているのです。いったい私は、毎日ここに座って、誰を待っているのでしょうか。どんな人を？いいえ、私の待っているものは、人間でないかもしれない。（中略）・・・もったとなごやかな、ぱつと明るい、素晴らしいもの。なんだか、わからない。たとえば、春のやうなもの。いや、ちがふ。青葉。五月。麦畑を流れる清水。やっぱりちがふ。ああ、けれども私は待っている

のです。胸を躍らせて待っているのだ。（中略）・・・こまかく震へながら一心に一心に待っているのだ。私を忘れないでくださいませ。〉

学生時代にお小遣いをはたいて購入した太宰治全集（筑摩書房）にあるこの掌編は、旧かなづかいなので、そのまま載せておきます。私はこの文章を読むと、不登校の子どもたちの顔が浮かびます。誰にも逢いたくない。でもじっと待っているのです。「待ち続けている私に気づいてください。忘れないでください」

## 親と子の「待つ」ことと「待たせる」こと

「待つ」ことも「待たせる」ことも身を固くして、あまりに真剣になってしまったら、「待つ—待たせる」という関係がとても窮屈になって、逃げ出したいくなってしまいます。ポーっと、ファーっと、待ったり、待たせたり。一緒に水辺に並んで座って、釣り糸をたらしている感じ。魚がかかるか、かからないか。釣れたらラッキー、釣れなくてもまあいいか・・・。

引っ張って、伸ばしたわけでもないのに、いつの間にか私の背をこしたね / 大きくなることを待っていたわけでもなかったけど / 待たせていたわけでもなかったけど / 期待することも忘れていたけど / 期待されていると思ってなかったけど / 何かが積み重なって大きくなったんだね / たぶんそうなんだろうね /

親と子の関係は、ぼんやり、ふんわりしているくらいでいいのではないかしらん・・・と思うキョウコノゴロです。

# やまびこフェスタ



10月29日(日)に開催した「やまびこフェスタ」では、大雨の中にもかかわらず、当所の卒業生や地域の方など、100名を超える方々の参加がありました。

県立八鹿高等学校吹奏楽部によるオープニング演奏が始まると、虹の館は一気に晴れやかな雰囲気になりました。心に響く美しいハーモニーに、会場からは惜しめない拍手が送られました。

開会行事が終わると、やまびこ農園特製の焼き芋、手作りわた菓子、名物やまびこ鍋などを食べていただきました。「ほっぺたが落ちそう」「体がほっこり温まる」など、みなさんから大好評でした。その他にも、いろりの館でのお茶席、卓球やビリヤードなどの遊び体験、プラ板や紙粘土などの製作体験など、楽しいひとときを過ごしていただきました。



## みなさまからのお手紙より

中学生だった娘が不登校になったとき、「なぜ、どうして」と毎日悩みました。初めてやまびこの郷に来たときには「本当に遠くまで来てしまった」と親子とも不安になりました。しかし、同じ部屋で宿泊していた子たちとすぐに意気投合し、友だちになることができました(今でも一緒に遊んでいます)。また、いつもと違った環境の中で、個性を認めてもらったり応援してもらったりしながら活動に挑戦し、新たな自分に気づくきっかけを得ることもできました。「不登校=ダメ」と思い続けていましたが、親子とも現実を受けとめ、新たな一歩を踏み出すことができました。スタッフやメンタルフレンドの方々には、いろいろとご指導をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



息子がお世話になった半年間、息子の意識を変え、前に進む力を与えてくださった方々に感謝の念が絶えません。高等学校への入学の際、やまびこの郷でもらった仲間からのメッセージやホームページのコピーなどをファイルに詰め込んで持っていく息子の姿を見たとき、やまびこの郷の存在が息子にとっていかに大きかったのかが分かりました。現在、息子はバレー部に所属しています(先日は合宿にも参加しました)。もともと球技は得意な方ではなかったので驚いています。そして、「学校が楽しい」と言ってくれていることが何よりの喜びです。

